

1学期学校評価の結果について

令和元年度 南牧小学校学校評価システムの羅針盤				アンケート例示 上:保護者用 下:児童用				1学期の考察と2学期の改善策	
評価対象	評価項目	具体的数値目標	今年度の方策	結果 《数字%は「Aよくあてはまる」「Bだいたいあてはまる」の合計値》					
Ⅰ 確かな学力の 向上 (かしこく)	1 授業は、わかる授業 となっていますか。	①「授業がわかる」と答える児童が90%以上である。	＊小規模校の利点を生かして一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行っていきます。 ＊授業の工夫と改善を図り、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上に努めます。	保護者	お子さんは「授業が分かりやすい」と言っていますか。			よい評価が得られました。今後も、学習課題を明確にし、児童1人1人の学習状況を把握しながら、少人数指導を生かした授業の改善に取り組んでいきます。これからも児童が主体的に学べるよう、「楽しい」「わかる」授業の実践を継続していきます。	
				児童	授業はわかりやすい。				
				保護者	地域	職員	児童		
					100.00%	100.00%	100.00%	96.30%	
	2 家庭で学習をする 習慣が児童に身に付いて いますか。	②家庭で自分で決めた学習(含宿題)や読書などをしっかり行える児童が90%以上である。	＊懇談会や学年だよりで家庭学習の仕方・例示・紹介を行い、家庭と連携して学習習慣の定着を目指します。 ＊「家庭学習の手引き」を活用し、家庭での自主学習の内容の充実を図っていきます。	保護者	お子さんは、家庭学習(宿題・読書を含む)を自分で決めて行っていますか。			家庭での学習習慣について課題を感じている児童、保護者の方もいるようです。「家庭学習の手引き」を基本とし、家庭と連携しながら、家庭でのよりよい学習習慣を身に付けさせるとともに、自主学習を通して自ら学ぶ力を伸ばしていけるよう、学年に応じた指導を続けていきます。	
				児童	自分から、家庭学習(宿題・読書を含む)を、きちんとしている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					88.89%	—	100.00%	88.89%	
Ⅱ 豊かな人間性 の育成(やさしく)	3 気持ちのよい返事 や挨拶をする児童が 育っていますか。	③気持ちのよい返事や挨拶ができる児童が90%以上である。	＊全体指導や日常的な学級指導、道徳科等の充実を通して継続的な指導をしています。 ＊言語環境を整えるとともに、「みんなのやくそく」の定着を図っていきます。	保護者	お子さんは、家族や地域の人などに気持ちのよい返事や挨拶をしていますか。			おおむねよい結果が得られました。全体的には、明るく気持ちの良い挨拶や返事のできる児童が育っていると言えます。今後も様々な場面を活用して、時と場合に応じた挨拶や日常的な返事ができるように継続して指導していきます。	
				児童	家族や地域の人たちに、いつも気持ちのよい返事やあいさつをしている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					96.30%	100.00%	100.00%	96.30%	
	4 いじめのない学校づくり のために取り組んでいますか。	④いじめの発生予防に努め、いじめの解消率が100%である。	＊小さい出来事も見逃さないように、日常の観察をしっかりと行い、毅然とした態度で指導を行います。 ＊いじめ防止基本方針に基づいた取組を行います。	保護者	学校は、いじめのない楽しい学級づくりや学校づくりに努めていると思いますか。			友達から嫌なことを言われたり、されたりという事例がありました。この事例はすでに解消していますが、引き続きいじめの未然防止・早期発見・早期対応を学校全体で取り組んでいきます。	
				児童	1学期のあいだ、人からいじめられたことはない。				
				保護者	地域	職員	児童		
					96.30%	—	100.00%	96.30%	
	5 自分のよさに気づき、 夢や希望をもった児童が 育っていますか。	⑤自分のよさや好きなこと、自分の可能性を伸ばすことについて、学校や家庭で話したり考えたりしている児童が90%以上である。	＊学級や縦割り班の活動を通して、集団の中で自分らしさを発揮できる機会をつくります。 ＊当番活動や様々な係活動を通して、自己の役割を理解し積極的に行動できる力を伸ばします。 ＊児童が活躍している様子を、家庭に向けて発信していきます。 ＊目標をもち、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努めます。	保護者	学校や学校以外の様々な活動を通して、お子さんのよさが発揮されていると思いますか。			おおむねよい結果が得られましたが、児童の数値に課題も見られます。多くの児童が集団の中で自分らしさを発揮し、進んで活動できていますが、その一方、学校の出来事や自分のことについて家庭で話す機会が少ない児童もいるようです。引き続き学校・家庭・地域で連携した取組を大切にし、児童のよさについて話題とできるように、学校から家庭へ情報発信ができるよう努めます。	
				児童	学級や縦割り班の活動で自分の役割を理解して進んで活動している。 学校のできごとや、自分の好きなことを、家の人と話すことがある。				
				保護者	地域	職員	児童		
					96.30%	100.00%	100.00%	85.19%	
Ⅲ 健康・安全・ 安心の推進 (たくましく)	6 児童の健康を考えた 適切な取組を行っていますか。	⑥基本的生活習慣の大切さを知り、早寝早起きのできる児童が80%以上である。	＊学校保健委員会での取組を基盤とし、全校でよい生活習慣づくりに取り組んでいきます。 ＊体育部と連携し、体力テストの結果等を活用しながら、運動習慣の定着に向けた取組をしています。	保護者	お子さんは、食事・運動・睡眠など、基本的な生活習慣が身に付いていますか。			家庭との連携ができ、目標は達成しています。しかし、定期的に実施している健康チャレンジシートの結果をみると、早寝早起きの項目が毎回低い結果となっています。基本的生活習慣の大切さはわかっているても、改善に向けて課題もあるため、家庭との連携も含め、健康チャレンジシートの活用を継続的にを行い、よりよい生活習慣が定着するようアプローチしていきます。	
				児童	食事、運動、睡眠など、規則正しい生活をしている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					92.59%	100.00%	100.00%	96.30%	
	7 児童の体力の向上を 考えた取組を行っていますか。	⑦学校や家庭で体を動かしている児童が90%以上である。	＊業間休みを長めに設定し、運動や遊び環境の工夫、体育や体育的活動と連携させた指導を生かした取組を行います。	保護者	お子さんは、学校や地域の中で積極的に運動したり、遊んだりしていると思いますか。			保護者に関しては目標をやや下回る値でした。児童には「体づくりこつこつシート」を活用するとともに、休み時間に外で遊ぶように声をかけたり、一緒に遊んだりして児童が外遊びをするようにしていきます。保護者との連携については、定期的に家庭で児童と保護者が運動する機会を設ける等の工夫をして、家庭でも運動に取り組めるよう、運動の大切さの意識を高めていきます。	
				児童	一週間のうち平日4回以上、休み時間や放課後に外遊びや運動を行っている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					88.89%	—	100.00%	100.00%	
	8 学校の安全対策はと られていますか。	⑧避難、救護などを想定したシミュレーションを定期的に行い、危機対応の見直しを図っている。	＊不審者・火災・地震等に対する対応訓練を計画的に行います。 ＊危険回避能力を身に付ける指導を計画的に実施していきます。	保護者	学校は避難訓練(地震・火災)や不審者対応などの安全指導を、計画的に実施できていると思いますか。			おおむねよい結果が得られました。1学期は、火災や不審者に対する避難訓練を行い、車からの声かけ訓練のときには「絶対について行かない」「大きな声を出して逃げる」ということを周知しました。今後は予告なしでの避難訓練(地震)や小中合同での避難訓練を行い、自分の身を自分で守る力を身に付けさせる指導を充実させていきます。	
				児童	教室・校庭・体育館で危険な場所があった時、気を付けることができる。				
				保護者	地域	職員	児童		
					100.00%	95.24%	88.89%	100.00%	
	9 登下校時の安全対策が 取られていますか。	⑨安全に注意して歩いたりバスの中で安全に過ごしたりできる児童が100%である。	＊通学路の安全点検を定期的 to実施します。 ＊バスの安全な乗り方について指導していきます。 ＊事故や熊の出没等、その都度危険情報を示して指導を行います。	保護者	学校は通学路やバスの安全な乗り方など、登下校の安全確保のための取組ができていると思いますか。			学期の始めと終わりに集団下校を行い、通学路の安全確認やバス停での待機の仕方を確認・指導したり、登校班会議で自分たちの登校の仕方について振り返らせたりして、より安全に登下校できるように指導を継続していきます。バスでの下校時には職員が付き添い、児童の安全確認を行うようにし、保護者や地域の方と連携し、安全な登下校ができるよう指導していきます。	
				児童	登下校のとき安全に歩いたり、きまりを守ってスクールバスに乗ったりしている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					100.00%	100.00%	88.89%	100.00%	
Ⅳ 学校と家庭・ 地域、保育 園・中学校間 の連携の充実	10 学校や児童の様子を 保護者や地域の方に伝え、 理解を得ていますか。	⑩「学校や児童の生活の様子がわかる」と答える保護者が90%以上である。	＊学校だより、学年だより、ふれあいテレビ、ウェブページで学校の方針や様子を効果的に伝えていきます。	保護者	学校は各種たよりや通信物・電話・連絡帳・ホームページ・なんもくTVなどを通じて、保護者への連絡をきめ細かく行っていると思いますか。			よい結果が得られました。ホームページの更新回数を増やして本校の教育活動を積極的に発信し、学校をより身近に感じていただくよう努めました。ふれあいテレビや学校・学年だよりも活用しながら、行事等を中心に教育活動の様子を効果的に伝えられるように工夫していきます。	
				児童	学校だよりや学級だより・連絡帳などで学校や自分のことが家の人によく伝わっている。				
				保護者	地域	職員	児童		
					100.00%	95.45%	100.00%	96.30%	
	11 保護者が学校を理解 したり、協力したりし やすい環境をつくって いますか。	⑪授業参観後の懇談会に出席している保護者が90%以上である。	＊学校公開日・日曜参観を設定したり、参加しやすいPTA活動を行っています。また、職員はいつでも悩みや意見を相談しやすい対応を心がけていきます。	保護者	学校行事や授業参観・PTA活動などは参加しやすいと思いますか。			家庭の協力のもと、よい結果が得られました。引き続き、学校行事や授業参観、PTA活動への参加の呼びかけを積極的にしたり、相談を受けやすい対応を心掛けたりしていきます。	
				児童	家の人や地域の人が業前や学校行事、授業参観などによく来てくれる。				
				保護者	地域	職員	児童		
					100.00%	100.00%	100.00%	96.30%	